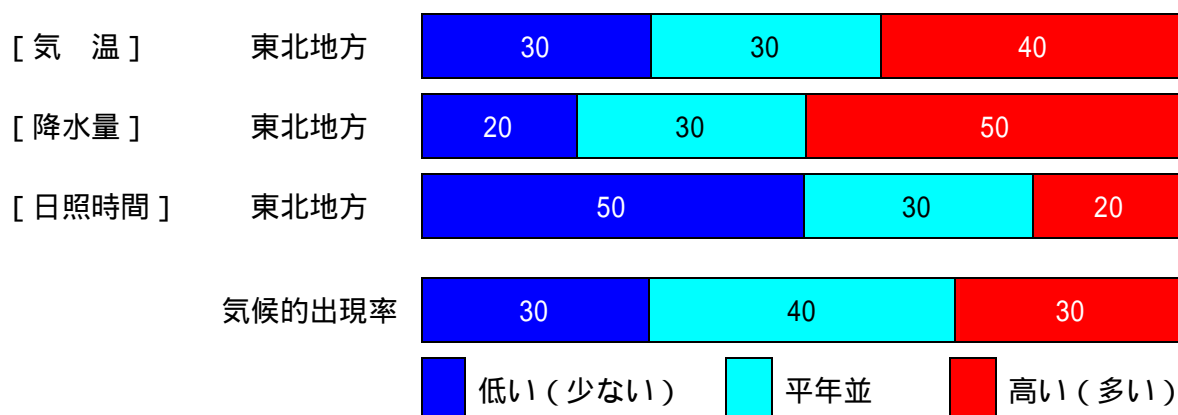


# 東北地方 1 か月予報の解説(予報期間: 6 月 5 日 ~ 7 月 4 日)

平成 11 年 6 月 4 日 仙台管区气象台

## 1. 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)



[ 気 温 ]: 東北地方は「高い」可能性が大きく、その確率は 40%です。「平年並」と「低い」確率は共に 30%です。

[ 降 水 量 ]: 東北地方は「多い」可能性が大きく、その確率は 50%です。次に大きい確率は「平年並」で 30%です。「少ない」確率は 20%と小さい。

[ 日照時間 ]: 東北地方は「少ない」可能性が大きく、その確率は 50%です。次に大きい確率は、「平年並」で 30%です。「多い」確率は 20%と小さい。

## 2. 予想される天候の特徴(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう 1 か月

前線や低気圧の影響を受け、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

オホーツク海高気圧の影響を受ける時期がある見込みです。

平均気温は「高い」でしょう。

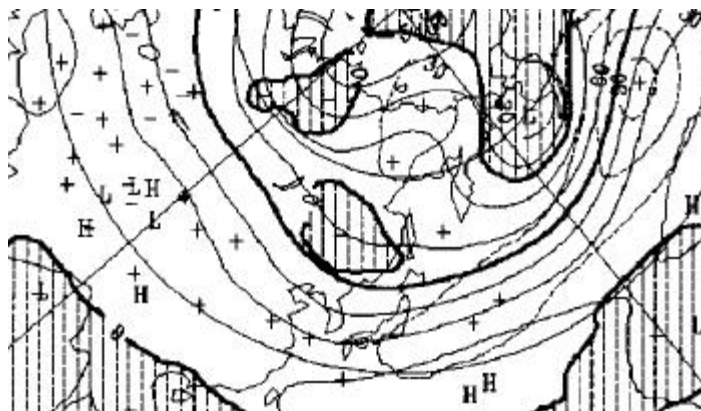
各予報期間の天候の特徴

1 週目…………… 天気は周期的に変わり、気圧の谷の通る 7 日頃と 1 週目の終わりに南部を(6 月 5 日 ~ 6 月 11 日) 中心に天気が崩れるでしょう。平均気温は平年並の見込みです。  
( 詳細は週間天気予報を参照 )

2 週目…………… 前線やオホーツク海高気圧の影響で、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。(6 月 12 日 ~ 6 月 18 日) 平均気温は平年並の見込みです。

3 ~ 4 週目…………… 前線や低気圧の影響で、平年同様曇りや雨の日が多いでしょう。(6 月 19 日 ~ 7 月 2 日) 平均気温は平年並の見込みです。

## 予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



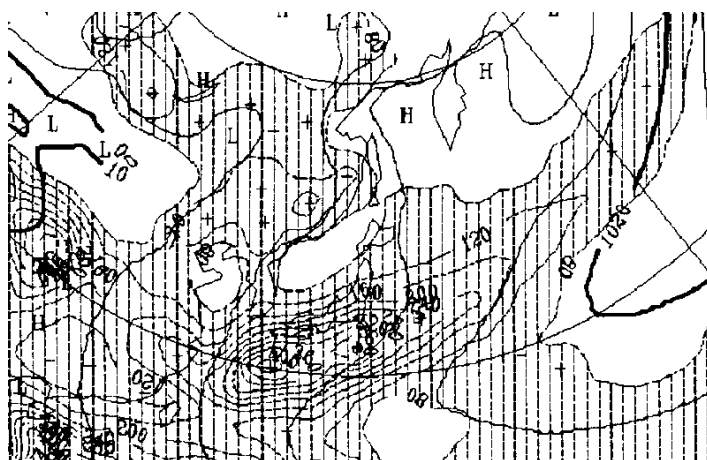
月平均の 500hPa 高度・偏差  
(等高線: 60m 毎、偏差: 30m 毎、陰影部: 負偏差)

### 500hPa 高度・偏差

沿海州で負偏差となっている他は広く正偏差となっている。日本付近は西谷の流れで、オホーツク海付近の正偏差も明瞭となっており、梅雨期に特徴的な流れの場。

2 週目（図略）はオホーツク海付近の高気圧と沿海州から日本海にかけてのトラフがはっきりしており、大気の蛇行はさらに明瞭となっている。

3～4 週目は大気の蛇行弱まる傾向だが、信頼度は小さい。



月平均の地上気圧と降水量  
(等圧線: 4hPa 毎、降水量: 40mm 毎、陰影部: 80mm 以上)

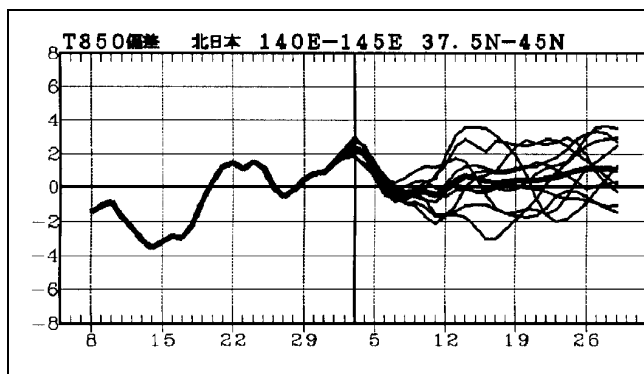
### 地上気圧と降水量

日本の南には太平洋高気圧が張り出し、オホーツク海付近も高圧部で、日本付近は前線帯となっている。日本の南岸には凝結量のまとまった領域が予想される。

2 週目はオホーツク海付近の高気圧が顕著だが、3～4 週目ははっきりしない。

## 3．北日本 850hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温は、アンサンブルメンバーの平均でみると期間を通してほぼ平年並で、弱い上昇傾向が見られる。ただ、1 週目後半からアンサンブルメンバー間のバラツキは大きくなり、信頼性は低い。



北日本 850hPa 高度（上空約 1500m）での気温偏差の実況と予想

縦軸：気温偏差（℃） 横軸：日付

発表日以降の細線は各アンサンブルメンバーの予想値、太線は平均値。

注）・資料の内容を他の要素により修正して予報を組み立てることがあります。

・850hPa の気温は、地上の気温と必ずしも対応しないことがあります。

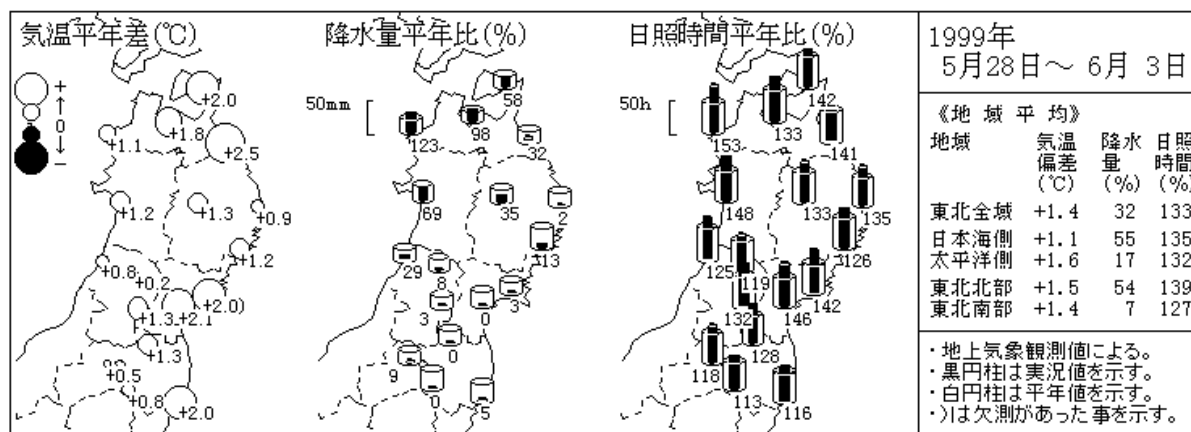
注：1 か月予報では、よく似た初期値から出発した 10 個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10 個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

#### 4．最近1週間(5月28日～6月3日)の天候の経過

この期間、天気は周期的に変化した。28日と3日には寒冷前線や低気圧の影響で東北地方全般に一時雨となったが、その他の日はおおむね移動性高気圧に覆われ晴れる日が多かった。

6月2日頃には九州南部地方で、6月3日頃には九州北部、四国、中国、近畿、東海、関東甲信地方で梅雨入りが発表された。

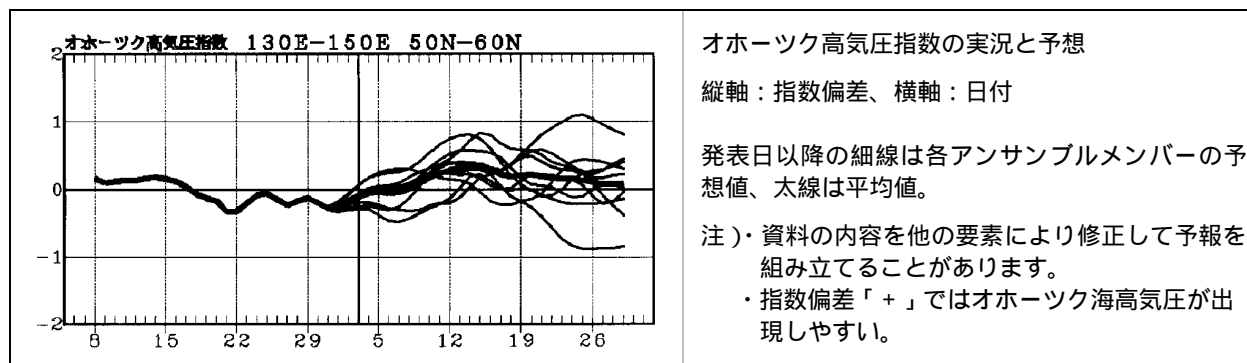
気温は平年より高く、降水量は平年より少なかった。日照時間は平年より多かった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)

#### 5．その他

オホーツク高気圧指数は、アンサンブルメンバーの平均でみると期間を通してほぼ平年並。ただ、1週目後半から2週目にかけ上昇傾向で、正偏差となるアンサンブルメンバーが多い。3～4週目はバラツキが大きい。



	平年の梅雨入り	平年の梅雨明け	昨年の梅雨入り	昨年の梅雨明け
東北南部	6月12日頃	7月23日頃	6月3日頃	特定しない
東北北部	6月14日頃	7月26日頃	6月3日頃	特定しない